

大正四年(一九一五) 絹本墨画淡彩
一八〇・七×一〇二・五



山元春挙(一八七一〜一九三三)は滋賀県大津市に生まれ、野村文挙そして森寛齋に師事して円山四条派の画法を身につけた。鮮やかな色彩を自在に操って楽園のような華やかな風景を描く一方で、円山応挙が得意とした積雪の表現に影響を受け、色味をおさえ墨を基調とした雪景を繰り返し描いた。明治三十七年(一九〇四)、農商務省および京都府の命を受けて、春挙はセントルイス万博視察のため渡米しているが、この時に雄大な雪山を目にした体験も手伝い、以後雄大な風景画を好んで描いた。

本図も、切り立った峻険な雪山と吹き下ろしの寒風にさらされる冠雪の松を描き、厳しさを極める冬の雪山が表現され

ている。画面左下には題名の通り、三匹の猿が小さく描かれている。大自然の中にこのように極端に小さく人や動物を配置して、自然の雄大さを強調するのは春挙が繰り返し用いた表現である。春挙が描く雪景図は、墨と胡粉のみの完全な単色のものから、そこにわずかに彩色を施すものまであるが、いずれも墨を主体にしながら卓越した描写技術で迫真的な雪景を描出することに成功している。

大正六年(一九一七)には帝室技芸員に任命され、同八年に帝国美術院会員となった春挙は、皇室の御用も数多くつとめ、本図も大正三年に竣工した須磨の武庫離宮の装飾用として、同四年に宮内省より制作を依頼されたものである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan